

設計規約 1 : モジュール設計の基本

| No | 名称 | 見所 | 要点 |
|-----|-------|----------|---|
| 1-1 | 部品化 | .hと.cがペア | 同じ名称のヘッダファイルと実装ファイル |
| 1-2 | 静動分離 | mainは短く | 静動分離（制御スレッド起点と論理構造を分離） トップBOSSモジュールと一致 |
| 1-3 | 状態分割 | 状態変数の定義 | データ辞書で状態を列挙型で定義（7個以内） 状態のenum定義がデータ辞書と一致 static宣言でファイル内にカプセル化 |
| 1-4 | 高凝集 | 凝集度を高く | ファイル単位の凝集度 = ファイル変数が単一目的 関数単位の凝集度 = 画面スクロール不要 |
| 1-5 | 疎結合 | 結合度は弱く | データ辞書で、連結（構造体）、選択（列挙型）、 繰り返し（配列）というデータ構造を定義 |
| 1-6 | カプセル化 | ファイル内変数 | ファイルの外部から変数をアクセスさせない 変数のget/set関数も使わない |
| 1-7 | レベル化 | BOSSを作る | 上位が下位のサービスを利用する関係を形成する |